

令和 6 年 5 月 2 日現在

機関番号：15401

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2021～2023

課題番号：21K00281

研究課題名（和文）近世後期における中世王朝物語研究の継承と展開 黒川春村『古物語類字鈔』を中心に

研究課題名（英文）The Fate of monogatari Studies across the Edo-Meiji Shift :Focus on Hurumonogatari-ruijisyo

研究代表者

小川 陽子（OGAWA, YOKO）

広島大学・人間社会科学研究科（文）・准教授

研究者番号：50512266

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 1,800,000円

研究成果の概要（和文）：近世後期に複数作成された物語目録のうち黒川春村による『古物語類字鈔』を主たる研究対象とし、同書と春村前後の物語研究とを比較検討することにより、【 . 近世後期における中世王朝物語研究の実態】と【 . の明治期における国文学研究への継承・展開】について考究した。加えて、研究課題遂行に伴い『雲隠六帖』および『石清水物語』に関する学界未紹介の資料を発見し、近世期における享受の具体相を分析した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

中世王朝物語は、近年の文学研究において注目を集めているジャンルのひとつである。しかし、これらの物語がどのように読まれ、研究されてきたのかは、十分に解明されていない。これに対し本研究は、江戸時代後期の学者・黒川春村が執筆した研究書を軸として、江戸時代から明治時代にかけての中世王朝物語研究の実態を明らかにした。同じ物語であっても、時代・社会背景の違いにより、研究の目的は異なる。物語研究の差異を分析することにより、江戸と明治の社会的相違点に迫りうるのである。

研究成果の概要（英文）：By comparing and contrasting the Kurokawa Harumura's Hurumonogatari Rujisyo, one of several monogatari catalogues compiled in the late modern period, with monogatari research conducted before and after Harumura, we investigated (1) the actual state of ChuseiOchoMonogatari research in the late modern period and (2) the succession and development of (1) into national literature research in the Meiji period. In addition, in the course of carrying out the research project, we discovered materials related to Kumogakure Rokujo and Iwashimizu Monogatari that had not yet been introduced to the academic world, and analysed the specific aspects of their enjoyment in the early modern period.

研究分野：日本古典文学

キーワード：中世王朝物語 作り物語 黒川春村 物語享受 『雲隠六帖』

### 1. 研究開始当初の背景

《中世王朝物語》とは、中世に成立した作り物語を指す用語である。この用語が生まれて、すなわち中世期の作り物語を総合的に把握しようという意識が学界で共有されて、20年が経過した。この間、翻刻・注釈が整えられ、個別の作品研究も進展した。近年、中古文学会でa「中古文学会で、中世王朝物語を考える」というシンポジウム(2014年)が行われ、中世文学会でもb講演(2016年、辛島正雄氏)やcシンポジウム(2017年、新美哲彦氏)で取り上げられたことから明らかなように、中古・中世文学研究の双方から注目を集めている。

しかし、その享受史についてはほぼ手つかずで、今後の進展が期待される状況にある。基礎的研究の重要性は上記a bでも繰り返し説かれ、伝本の少ないこの分野にどう取り組むかという問題意識はcでも共有されている。

一方で、近年は中世王朝物語という用語の是非が問われてもいる。それは、中世とは/王朝とは/物語とは、という「問い」でもあり、当該物語群を周辺の時代・ジャンルの中で相対化しながら文学史にどう位置付けるかという「問い」であり、虚構的な語りものの生成と受容をどう把握するかという「問い」として捉えなおすことができる。2018年に研究代表者らによって中世王朝物語研究会を再開し、和歌や日記、御伽草子等の周辺ジャンル研究者の参加も得て活発な議論が行われているのは、これらの「問い」に対する応答を目指すものと位置付けられる。

このような研究状況のなか、研究代表者は、特に近世期における中世王朝物語享受の具体相を明らかにすべく、研究活動を行ってきた(科学研究費補助金・特別研究員奨励費 06J11733「王朝物語享受資料のデータベース化と享受ネットワークの解明についての研究」、科学研究費補助金・若手研究(スタートアップ) 20820065「近世期における王朝物語享受ネットワークについての研究」)。

上記の背景を踏まえ、本研究は、近世における物語研究のひとつの到達点と目される『古物語類字鈔』を中心に据え、中世王朝物語を享受史から捉えていく。近世後期の和学者らの研究から明治の東京大学関係者を中心とする国文学研究の始発期にかけて中世王朝物語がどう捉えられてきたかという「問い」に答えるとともに、その答えを、現代の研究が見出した《中世王朝物語》という枠組みを捉え返し、再考していく一助としたい。

### 2. 研究の目的

本研究の目的は、中古中世の物語を網羅的に収集・考察した黒川春村『古物語類字鈔』の記述内容および現存伝本を手掛かりとして、近世後期における中世王朝物語研究の実態および明治期における国文学研究への継承・展開の具体相を明らかにすることである。

中世王朝物語の現存伝本は限られており、研究代表者は、中世王朝物語を作品単体ではなく総合的に扱うことの有効性および近世における受容と研究の成果を網羅的に確認できる物語目録の重要性を明らかにしてきた。これを承け本研究は、物語目録の中でも記述の質量ともに最大であり、幅広く受容されたことが明らかである『古物語類字鈔』を主たる研究対象とする。中世王朝物語の享受史研究はいまだ緒に就いたばかりで、とりわけ近世から近代へという時代の転換点における伝本・研究・物語観の継承は不明な点が多い。本研究は、『古物語類字鈔』を検討対象とすることにより、中世王朝物語を総合的に扱いながら、近世から明治への継承・展開に迫っていきたい。同書は広く《古物語》を扱うものであり、これを研究対象とすることにより、中古から近世にかけての幅広い時代、王朝物語から御伽草子・軍記物語をも含む幅広いジャンルを視野に入れながら、通時的・ジャンル横断的に中世王朝物語を把握することを目指す。

### 3. 研究の方法

本研究は、【 . 近世後期における中世王朝物語研究の実態】と【 . の明治期における国文学研究への継承・展開】を3年間で解明することを目指す。

#### 【 . 近世後期における中世王朝物語研究の実態】

近世後期に相次いで成立した物語目録は和学者たちのネットワークの中で情報を共有しながら徐々に拡充がなされたものであり、その集大成として位置付けられるのが黒川春村『古物語類字鈔』である。物語目録は「項目名(物語名)」+「項目内容(当該物語に関する情報)」の集積によって構成される。最初期は基本的に「項目名」の列挙が主体であるが、次第に「項目内容」(伝本、作者、成立、内容批評など)が増加、充実した。本研究では『古物語類字鈔』とその前後に位置する物語目録を2つの観点(扱う物語の拡充、研究内容の進展)から比較検討する。考察対象とする物語目録は、以下の8点である。

山岡俊明『古物語目録』 清水浜臣『古話篇目』 本多忠憲『物語目次』  
伴直方『物語書目備考』 大野広城『風葉集』付載目録 岡本保孝『物語書名寄』  
黒川春村『古物語類字鈔』 横山由清『古物語名寄類韻』

#### 【 ． の明治期における国文学研究への継承・展開】

『古物語類字鈔』の現存伝本は9本あり、その書写・所蔵に関与した人物には明治期の国文学研究において重要な役割を果たした者が少なくない。とりわけ東京大学関係者が多いことは注目に値する。他書の書き入れや研究書における言及等から確認できる受容者にも目を向けると、その数はさらに増加する（佐々木弘綱、萩野由之、小中村清矩、中村秋香、長谷川福平、藤岡作太郎など）。近代国文学の始発期において重要な役割を果たした東京大学古典講習科にかかわった人々は、多く近世後期の和学者とつながりを有している。本研究では、『古物語類字鈔』の享受者という枠組みを設け、上記 で得られた成果を基盤とすることにより、【近世後期から明治期への中世王朝物語研究の継承・展開】を解明する。上記の人々による研究書を分析・検討し、春村の研究がどのように受け継がれ、乗り越えられていったかを明らかにする。中でも相次いで公刊された長谷川福平『古代小説史』（明36）・藤岡作太郎『国文学全史 平安朝篇』（明38）は『古物語類字鈔』を引用しながら物語論を展開しているため、優先的に分析対象とする。

上記 ・ と並行して、中世王朝物語現存伝本および享受資料の追加調査および新資料の発掘にも取り組む。

#### 4．研究成果

(1) 春村と同時代の物語目録 近世後期に作成された物語目録の残存状況について改めて確認し、未収集の資料について可能な限り紙焼き写真もしくは電子データを収集した。特に下記資料について新たに存在を把握し、本文を収集できたのは、大きな収穫であった。

『古話篇目』東北大学図書館本

『物語書目備考』慶應義塾大学図書館本（国書総目録にて「幸田成友」蔵と記載）

『物語書目備考』国文学研究資料館鉄心斎文庫本

『物語書目備考』東海大学図書館桃園文庫本

『物語書目備考』正宗文庫本

以上の収集に基づき、『古物語類字鈔』に次いで現存伝本の多い『物語書目備考』について、諸本展開の具体相を整理・考究した。

(2) 黒川春村の物語研究 8種の物語目録について、立項された物語名のデータ化を行い、目録間の異同および目録の増補成長を解析した。あわせて、『古物語類字鈔』における「つくりものがたり」という語の使用について、物語享受史における相対的位置を明確にした。また、ノートルダム清心女子大学図書館蔵『蜚刈藻物語系図年立／石清水物語系図』について、『源氏物語』注釈や近世後期の索引類ならびに物語目録類との関係を明らかにした。

(3)(2)の相対化 黒川春村の物語研究を相対化すべく、江戸時代後期における他の人物による物語研究についても分析を行った。具体的には、田中大秀および足代弘訓を検討対象とした。まず田中大秀については、大秀の作成した中古散文関係の目録5点について、原本調査を行った上で、黒川春村の作成した目録との比較等を通して、その特徴を解明した。次に足代弘訓については、研究課題を遂行する過程で新たな資料を発掘しえたため、研究対象に加えた。とりわけ『石清水物語』について、春村・大秀いずれとも異なる観点・方法によって相対していることを明らかにした。

(4) 黒川春村から明治の物語研究への継承・展開 (2)における近世後期に作成された8種の物語目録の比較に基づき、『古物語類字鈔』の特色のひとつとして個々の物語の成立時期に関する考察がなされていることを指摘し、この特色こそが明治期の物語研究と深く関わることを明らかにした。具体的には、長谷川福平『古代小説史』および藤岡作太郎『国文学全史 平安朝篇』における春村の言説受容を分析し、展開の具体相を解明した。また、その展開においては明治の社会状況が大きく影響していることも指摘した。

(5)『雲隠六帖』 研究課題を遂行する過程で『雲隠六帖』の新出写本を入手することができた。この写本は、伝本二種の中間的な本文を有する、寛文9年から明治35年に至る3種の奥書を備え、かつ他2作品と合写されており、近世から近代にかけての『雲隠六帖』享受の具体相を知りうる、という2点において、きわめて重要な一本であることを明らかにした。 の特徴を踏まえ、現存諸本の本文異同に基づく『雲隠六帖』のジェンダー表象について分析した。また、作中和歌の本文異同を押さえた上で、和歌および歌ことばを主たる視点として『源氏物語』享受史における位置をも明らかにした。さらに、 の特徴を踏まえ、合写された2作品の本文を手がかりとして『雲隠六帖』の享受者層についても解明をはかった。

以上の研究成果については、国内外の学会および研究会で発表を行ったほか、その大半を論文として公表することができた。とりわけ2度にわたって国際学会(EAJS2021, EAJS2023)で発表することにより、本研究の成果を国際的に発信すると同時に、幅広い視点からの問いや示唆を得ることができ、今後の研究進展への大きな手掛かりを入手できたことは幸いであった。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計3件（うち査読付論文 1件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 2件）

1. 著者名 小川陽子	4. 巻 254
2. 論文標題 『雲隠六帖』諸本共通祖型に迫る 新出・広島大学蔵本の位置	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 国文学叢	6. 最初と最後の頁 11-25
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小川陽子	4. 巻 70-2
2. 論文標題 中世王朝物語享受資料集成稿（一） - 黒川春村 『蜚刈藻物語系図年立 / 石清水物語系図』 -	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 岐阜大学教育学部研究報告. 人文科学	6. 最初と最後の頁 183-192
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 小川陽子	4. 巻 30
2. 論文標題 作り物語の変容とジェンダー - 『雲隠六帖』における紫の上の変容を中心に -	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 日本文学研究ジャーナル	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計5件（うち招待講演 1件/うち国際学会 2件）

1. 発表者名 小川陽子
2. 発表標題 『狭衣物語』から『山路の露』へ
3. 学会等名 中世王朝物語研究会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 小川陽子
2. 発表標題 『雲隠六帖』古態本の出現
3. 学会等名 古典研究会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 小川陽子
2. 発表標題 Scholars of the Tale: The Fate of monogatari Studies across the Edo-Meiji Shift
3. 学会等名 EAJS2023 Conference(17th International Conference of the European Association for Japanese Studies) (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 小川陽子
2. 発表標題 Tsukuri-monogatari: An Archaeology of Premodern Literary Analysis
3. 学会等名 EAJS2021 Conference(16th International Conference of the European Association for Japanese Studies) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 小川陽子
2. 発表標題 『雲隠六帖』の和歌 新出・広島大学蔵本を起点として
3. 学会等名 広島大学国語国文学会研究集会 (招待講演)
4. 発表年 2023年

〔図書〕 計3件

1. 著者名 横溝博、クレメンツ・レベッカ、ノット・ジェフリー	4. 発行年 2022年
2. 出版社 勉誠出版	5. 総ページ数 368
3. 書名 日本古典文学を世界にひらく Opening Classical Japanese Literature to the World (担当範囲: 「つくりものがたり」の位相)	

1. 著者名 岐阜県郷土資料研究協議会	4. 発行年 2023年
2. 出版社 岐阜県郷土資料研究協議会	5. 総ページ数 273
3. 書名 創立五十周年記念論集 (担当範囲: 田中大秀と中古散文の目録)	

1. 著者名 横溝博、金光桂子	4. 発行年 2023年
2. 出版社 花鳥社	5. 総ページ数 512
3. 書名 中世王朝物語の新展望	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------